



株式会社 ストライク様

URBAN PLAN PRESS

働き場改革

WORKS・事例紹介

MIMC / Rist

ミヤリサン製薬 / indies zero

PICK UP

UP VIETNAM

URBAN PLAN OFFICE

Vo.004 TAKE FREE

MIMC / TOKYO



約 60 坪のオフィスに、50 人強の社員がひしめいていた。幅 120cm のデスクに着くと、他の社員とは背合わせ。来客用の打ち合わせスペースまで、道路を渡って歩いていく。決して快適ではない。それでも移転しなかったのは、創業の地・自由が丘への強い思い入れがあったから。

2007 年に MIMC ブランドの化粧品を発売して以来、本社機能を置いてきた自由が丘を離れることを決意したのは 2019 年 1 月。より広く、より使いやすく。そしてなにより、顧客の信頼に応えられる機能と利便性を備えたい。そんな思いで選んだ地は、青山一丁目。広大な赤坂御用地を見渡す 260 坪のオフィスだ。移転前の 4 倍に広がったオフィスに入ると、目の前に広がるのは広大なエントランス。白をベースカラーとした明るく開放的な空間を、4 室のミーティングスペースが囲む。2 室の間を遮る可動壁を動かせば、イベントにも使用できる大空間ができあがる。新製品の展示会やディーラー向けの説明会、大規模な会議にも使用されるこのスペースは、移転して実現できたことのひとつだ。「以前のオフィスではお客様が来ると、『ではこちらへ』と言いながら外へ出ていくのです。はじめて来られた方は不思議そうにしていましたね」。移転前、打ち合わせスペースが別の建物にあった頃を懐かしむのは、MIMC

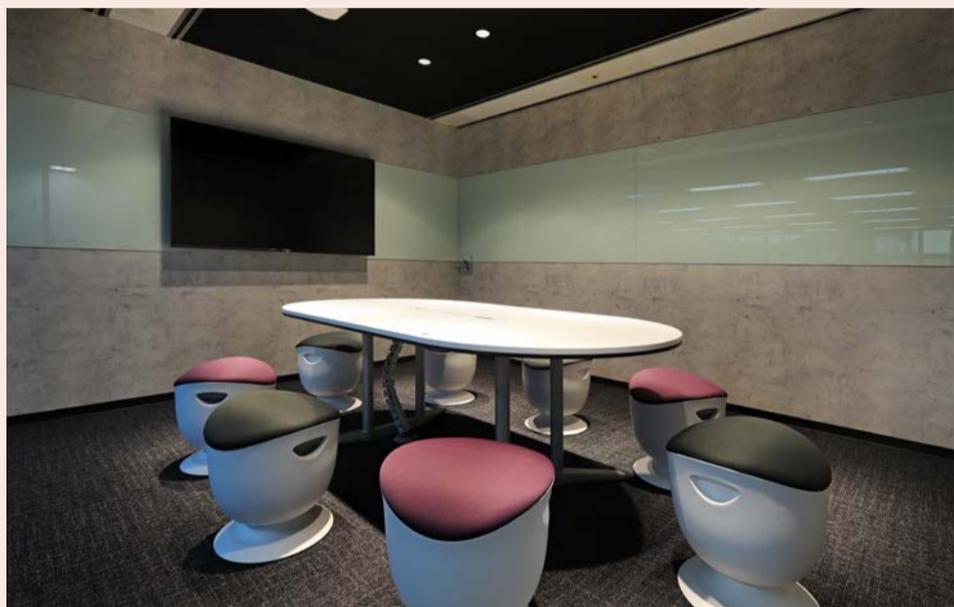
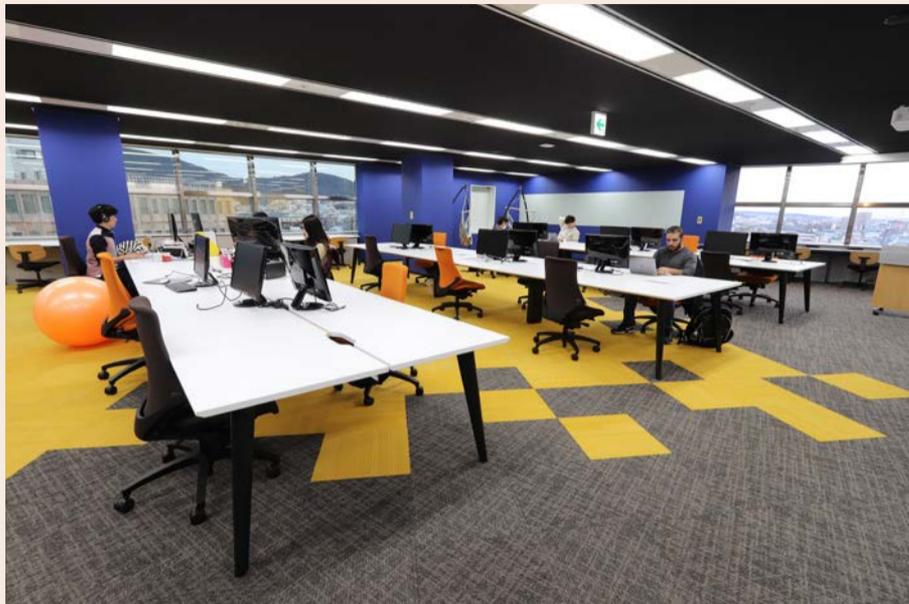
商品部ゼネラルマネージャーの豊田勇介氏。「雨の日は傘を差しながら、暑い夏は汗を拭きながらでしたから」と笑いながら話す。それでも、社員の間には大きな不満はなかったという。「慣れもあると思いますが、それ以上に自由が丘は面白い街でしたから」。移転の決定打となったのは、現在のオフィスが持つアクセス性と御用地を目の前にした格式、そして眺望だという。豊田氏は語る。「都内でこれだけ眺望が開けた立地はあまりありません。ミーティングスペースを御用地側にしたのも、この景色をお客様に楽しんでいただこうという思いからです」。内装の全体デザインは、化粧品を販売する店舗や製品、ブランドイメージなどに沿ったもの。オーガニック製品をメインにしていることもあり、ナチュラルでシンプルな雰囲気づくりに取り組んだ。エントランスのソファやミーティングスペースのテーブルと椅子、さらに建具にいたるまで、同社のデザイナーがこだわり抜いた。エントランス奥の執務スペースには仕切りを設けず、開放的な単一の空間とした。移転前より多い 60 名が働くが、デスクの幅は 140cm に広がった。打ち合わせスペースや集中ワークに使える狭小空間、リフレッシュコーナーも設けた。それでもなお、オフィス内は余裕を感じさせる。移転当初は社員の間から、人との距離

が遠くて寂しく感じるとの声が挙がったほどという。もうひとつ変わったのが、リクルーティングに対する考え方。豊田氏は、「以前は入社希望者が来ても、なんだか申し訳ないような後ろめたいような気がしていました」と振り返る。それが今では、入社希望者の訪問を積極的に受け入れるようになった。さらに管理部を設立して、人員管理やオフィスの管理などをより効率化させる仕組みも立ち上げた。せっかく良いオフィスに移ったのだから、もっと良くしていきたい。そして、会社自体も良くしていきたい。移転で変わったのは、広さやアドレス、眺望だけではないようだ。



豊田ゼネラルマネージャー

Rist / KYOTO



京都市下京区。五条大橋にほど近いビルに本社機能を置く Rist が生まれたのは、2016 年。京都大学の学生や OB が中心となり、ディープラーニングを中心とした科学を通じて世の中にイノベーションを起こすことを目指して設立された、いわゆる学生ベンチャーだ。主力は、独自開発の AI による画像処理。それまで目視が主流だった工業製品の外観検査を自動化し、同分野におけるシェアはトップクラス。設立から4年で、業容、人員、オフィス規模、すべてが7倍に増大した。現在のビルには、2019年7月に移転してきた。11階のワンフロア約100坪を専有していたが、膨らみ続ける業容は人員増となってすぐにオフィスからあふれ出し、数か月後には増床を決意。2020年2月に同じビルの7階130坪に新オフィスを開設した。現在では正社員やパートタイマー、インターン生など90名以上が、2フロア合計230坪ほどのオフィスで働いている。7階オフィスには約60席を用意。フルタイムで働く正社員用の15席のほかは、仕切りのないフリーアドレスとした。パートタイマーやインターン生が入れ替わりで働くフリーアドレスエリアは、ブラックを基調とした落ち着いた室内にホワイトのデスクが並び、同社のイメージカラーであるブルーがパートカラーとして彩りを添える。床にもブ

라운のタイルカーペットにイエローをアクセントカラーとして加え、単調さを払拭。オフィスワークがメインとなる同社の業務は、室内の快適性が生産性に直結する。窓の外に広がる京都の景色とともに、飽きの来ない内装とした。業容の拡大とともに、スタッフの増員とあわせて課題となったのがミーティングスペースの確保だ。オフィスには最大10人用と同じく8人用の2室を用意したが増え続けるニーズに対応できなくなり、ちょっとした打ち合わせはデスクで行うこともあったという。しかも、調べたところでは打ち合わせの多くが2~4人の小規模なもの。そこで7階には会議室2室のほか、小規模な打ち合わせスペースを5室設けた。さらに休憩や仮眠、集中ワークに使える小部屋も用意。働き方の幅を広げるとともに、従業員の快適性向上につなげている。AI技術者をはじめとする、いわゆるIT人材は払底とっていいほどの欠乏状態にある。こうしたなか同社では、毎年数十人規模のエンジニア採用を実現している。学生インターンの積極的な採用や投稿型データ分析サイトの活用など、即戦力となる人材の発掘・招聘・育成にも力を入れる。だが同社代表取締役の藤田亮氏は、「新しいオフィスが求人核になっているのは間違いありません」と話す。技術系の企業では、優秀な人

材をいかに確保できるかに全てがかかっていると言ってしまうのではない。「働く側にとっては、『自分の市場価値を高められるか、成長できる職場かどうか』が非常に大切です。オフィスには、そういう職場であるというメッセージを伝えるための、大切な役割があるのです」。日本のものづくりは、優れた品質で評価されてきた。「その品質を担保する製品検査が、人材不足に陥っている。技術の力で何とかできれば」と藤田氏は語る。オフィスも、人材も、すべてはものづくりを支えるために。



藤田代表取締役

COMPANY NAME : 株式会社 Rist

ADDRESS : 京都府京都市下京区五条通河原町西入本覚寺前町 830 京都エクセルヒューマンビル 11F

PROJECT : 増床

HP : <https://www.rist.co.jp/>

ミヤリサン製薬 / FUKUOKA



博多駅直結のオフィスビルに事務所を構える、ミヤリサン製薬福岡支店。134坪のフロアは事務職スタッフの固定席が数席あるほか、すべてフリーアドレスだ。室内には一般的なデスクとオフィスチェアのほか、ハイチェアが並ぶカウンター、ローテーブルとローチェアを配したリラックスペース、隣席との間がパネルで仕切られた集中ワーク用のブースなど、多彩な「働く場」がずらりと並ぶ。フリーアドレスオフィスのメリットは、その登場時から大きく変わった。かつてのそれは、コストカットに向けられていた。外勤社員の席を減らし、什器を減らし、出社の機会を減らす。しかし現在のそれは、付加価値にとって代わっている。業務内容や関わる人数、作業の進行などに合わせて、リラックスしたり集中したり、発想力を高めたりするために、もっとも適した場を選んで働く。すなわち生産性を高めるために最適な場を選べる施策として、フリーアドレスは認識されるようになった。福岡支店が現在のフリーアドレスオフィスに移転したのは2019年9月。移転の理由は、「変革」だ。製薬業は長期にわたって培ってきた信頼が第一だが、企業にとって保守性は停滞と紙一重でもある。既存の枠にとらわれては、市場をけん引できるような新戦略は生まれ難い。オフィスの変革による社風の刷新は、同社社長・内

田正行氏の提言によるものという。移転プロジェクトを推進した福岡支店の相良氏は、「数年前から移転の指示はあったのですが、なかなかいい物件がなくて」と話す。ようやく物件が決まり、オフィスを構築する段階になっても「はじめは『明るくお洒落なオフィスに』というくらいのイメージしかなかったんです。そのころはフリーアドレスもよくわからなくて」と明かす。「でも、とにかく新しいものを取り入れたくて。フリーアドレスは、そのうちの大きな一つだったのは確かです」。福岡支店に所属する社員は約20人。しかもその3分の2以上が外回りを主体とする営業職だ。それに対し、執務スペースには40近い席が用意されている。さらに大小2つの会議室には、合わせて30脚以上の椅子が配される。「確かに広いですし、席数も多いですよ」と話す相良氏だが、提案されたイメージパースを見た瞬間に納得がいったという。「パースを見て、フリーアドレスの本質がわかったんです。業務に合わせて働く場を選ぶっていうのはこういうことか、と」。福岡支店のフリーアドレスは、実はミヤリサン製薬では初めて採用されたもの。カフェスペースや広々とした会議スペースと合わせ、顧客を集めたイベントや説明会、全国から社員を呼んでの研修など、オフィスとしての使い道は大きく広がった。

訪れた人々の評判はいずれも好意的だったが、なかでも高かったのは社内での評判。「福岡支店のオフィスがナンバーワンということで、社内では異論がありません」と相良氏。「移転を指示した社長がこのオフィスに感動して、全社フリーアドレス化を指示したほどです」と続ける。一支店のフリーアドレス化によってひとつのベンチマークが生まれ、やがて全社に広がっていく。オフィスの革新が企業の革新につながるという理念が、その正しさの証明を自ら開始した。



相良課長

COMPANY NAME : ミヤリサン製薬株式会社

ADDRESS : 福岡県福岡市博多区博多駅中央街 8-1 JRJPビル 8F

PROJECT : 移転

HP : <http://www.miyarisan.com/>

indies zero / TOKYO



なにかを創造するとき。どこまでこだわるかは、制作者にとって永遠の課題だろう。コンピューターゲームの制作を主業とするインディーズゼロのオフィスは、荻窪の街を見下ろすビルの10階。1997年の創業以来こだわり続けてきた吉祥寺という立地をはじめ離れ、荻窪の現オフィスに移転したのは2019年6月。代表取締役で創業者の鈴井匡伸氏は「吉祥寺には、いろいろなものが混在しています。ものづくりをする上での刺激にもなる。すごく好きな街です」と思い入れを語る。その好きな街から、はじめての移転。理由を一言でいえば「マンネリの打破」ということになるだろうか。ゲームの制作には、クリエイティブな要素が多くを占める。思考のマンネリ化は、そのままゲームのクオリティ低下につながってしまう。人数も増え、手狭にもなってきた。漠然と移転の必要性を考えてはいたものの、40人のスタッフを収容できる物件は吉祥寺には無く、仲介業者からの電話を待つ日々が続いた。そして突然提示されたのは、荻窪に立つオフィスビル内の150坪。しかも金曜日に電話が来て、週明けには返事が欲しいという。「すぐに社内で会議したら、みんな『いいんじゃないですか』って。吉祥寺がアイデンティティだと思ってたの、私だけだったのか？って」（鈴井氏）。いざオフィス構築を

始めると、吉祥寺へのこだわりはオフィスへのこだわりを姿を変えて鈴井氏を虜にした。自身で図面を引いてゾーニングを検討し、室内の配色から収納場所の位置やサイズ、応接スペースのテーブルの高さとソファのバランス、会議室の音響や電源位置、倉庫の広さと使い勝手、さらにオフィス内は土足禁止のため床材の「踏み心地」まで、文字通り「オフィス内の全て」が検討個所となった。結局、ドアやオフィス内什器も含め家具類はほとんど全てを新規に造作した。一切の妥協を排除したという新オフィスのなかで、特に好評なのがリフレッシュスペース。窓に面したベンチには人工芝が貼られ、夜には東京の夜景が広がる。休み時間にはごろ寝をする姿も見られるという。休憩用に設けられた和室には、ゲーム制作会社らしくゲーム機や雑誌が並ぶ。落ち着いた雰囲気のエグゼクティブスペースは、仕切りのない大空間。40人の社員数に対し、60席を確保した。壁際にはミーティングスペースを設置し、ちょっとした打ち合わせがすぐにできる。何より大きく変わったのが、社内での過ごし方。鈴井氏は「社内の空気を変える必要があるのなら、会社ごと変わってしまえばいい。移転というより社員全員で別の会社に移るようなイメージで、私は『社内転職』と呼んでいます」と話す。自動掃除ロボットの格納庫まで

完備した使い勝手の良い執務スペースに、気分転換に一役買うリフレッシュスペース。植栽を配し、目にも心にもやさしい空間を目指した。「ゲーム業界では、新しさや刺激を求めて会社を移るクリエイターは珍しくありません。でもあるとき思ったのです。ほんとうに大切にすべきなのは、同じ会社でものづくりを続ける人なんじゃないか。ならば、常に新しいモノ、刺激のあるコトを起こしていけばいいんじゃないかって」。アットホームだけどぬるま湯じゃなくて、きちんといいものを創れる。鈴井氏が目指したのは、そんなオフィスだという。良いモノをつくるための場づくりには、良いモノをつくるのと同様以上のこだわりがあるので。



鈴井代表取締役

UP VIETNAM

NEWS

ツオンさん
ベトナム設計室 室長



UP ベトナム移転しました!!

アーバンプランベトナムはこの度新しい事務所に移転しました！日本から飛行機で約6時間。ビーチリゾートとしても有名なダナンで引き続き活動していきます。これからもUP ベトナムをよろしくお願いいたします！



FOOD

ベトナムの食
UP ベトナムメンバーがお勧めする
ベトナム料理をご紹介します

01

ネムルイ

Nem lui

「ダナンの名物といえば？」と質問したら、まず挙がってくるのがこちらの「ネムルイ」です。ライスペーパーでベトナム風のつくねや野菜を巻いて食べる料理です。大量のつくね棒をもった店員さんが店内を巡回していて、つくねが足りなくなったらすぐに補充してくれるのもベトナムならではの光景です！

ベトナム風お好み焼きと呼ばれる「バインセオ」というベトナム料理。米粉で焼いた皮で、炒めたもやし、海老、豚肉などを包み、葉野菜に乗せ、ベトナムの伝統タレにつけて食べます。ベトナムに遊びに来たときは、是非「バインセオ」食べてみてください！



02

バインセオ

Banh xeo

03

UP ベトナムのお弁当



ベトナムでは、お弁当を持参するランチスタイルが増えていきます。アーバンプランベトナムメンバーのお昼ご飯をのぞき見！色どり豊かなお弁当をはじめ、キャラ弁など様々なお弁当がアーバンプランベトナムの食卓を彩ります。

つくね1つ1つのサイズが程よい大きさで、
どんどん食べられちゃいます!!



林田さん
横浜営業所 所長



UP ベトナムでは CG 作成を承っております!!



URBAN PLAN OFFICE



東京本社
東京都新宿区西新宿 1-25-1
新宿センタービル 34F
TEL 03-5909-0515
FAX 03-5909-0516



大阪営業所
大阪府大阪市淀川区西中島 5-5-15
新大阪セントラルタワー南館 6F
TEL 06-6306-6456
FAX 06-6306-6457



名古屋営業所
愛知県名古屋市中村区名駅 4-5-28
桜通豊田ビル 5F
TEL 052-589-9981
FAX 052-589-9982



横浜営業所
神奈川県横浜市中区本町 6-52
本町アンパービル 8F
TEL 045-226-3566
FAX 045-226-3567



ベトナム設計室
Room 5D, 5 Floor, Ricco Building, 363
Nguyen Huu Tho Street, Khue Trung
District, Cam Le Town, Danang City,
Viet Nam

※制作されたCGはイメージになります。CGの内容を実際に施工する場合には別途アーバンプランまでご相談下さい。

